

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190400226), 法人名 (株式会社 ケアスタッフ), 事業所名 (グループホームみちの木琴似 2F), 所在地 (札幌市西区琴似3条5丁目3-26), 自己評価作成日 (令和4年2月7日), 評価結果市町村受理日 (令和4年4月1日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年ケアスタッフの2棟目のグループホームとして、地下鉄琴似駅から徒歩5分程の住宅街の中に開設。2つの町内会から声をかけていただき、両方に加入しており、コロナ以前にはお祭りに声をかけていただいたり、運営推進会議に複数の町内の方々に参加して下さるなど、良好な関係性が続いている。近くの公園や、近隣のお庭の桜や紅葉など、コロナ禍でも可能な限りお散歩の機会を設け、感染対策をしながらご近所との挨拶を交わす関係性が継続できている。徒歩圏内には系列の訪問介護事業所があり、研修会や行事などで連携を図っている。ご入居者様お一人おひとりの心に寄り添い、心地良い時間(とき)を過ごしていただくことを使命と心得、クレド(理念や行動指針の総称)に基づき、同じ方向を向いて支援することを目指している。事業所ごとにクレドに基づく年間事業計画を作成して実践に活かしており、また、様々なスタッフの成長に合わせた研修を企画・実施し、さらなる成長を目指している。スタッフは、ご入居者様のペースに合わせて寄り添うことで、出来る事・出来ない事を把握し、想いを汲み取るよう努め、気付きを共有し話し合いながら、その方らしく暮らしていただけるような実践につなげている。日々の暮らしの中で、生きがいややりがいに結びつくよう家事や好みの活動の機会を提供し、馴染みの話題で心からの笑顔を引き出し、季節のイベントやそれぞれのお誕生会では、飾り付けやごちそうメニュー、手作りのゲームや余興など、スタッフが楽しみながら企画・実践することで、たくさんの笑顔をいただいている。ご家族との連携により、生活歴や個性などを把握し、その方らしい暮らしを支えることを目指し、お看取りを視野に入れてご家族と共に行える支援を工夫している。コロナ禍で面会が難しい間も、ご本人の状況がわかるよう、みちの木によりて日常の写真を出来るだけ多く添付し、毎月お送りしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0190400226-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年2月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は共有のため壁に貼り、毎年度クレド(理念や行動指針の総称)に基づいた事業計画を立てて取り組み、クレドの読み合わせや、会社の自己評価で理念に沿った振り返りを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方には、四季折々で庭を見せて頂いたり、日常的に挨拶を交わす関係性が出来ている。また、好意的にホームを受け入れて頂き、コロナ前の運営推進会議では、地域の2つの町内会から参加して下さい、良好な関係性を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在、コロナ禍のため、発信できていないが、以前は運営推進会議への参加を契機に、身内の方の支援の方法など、相談を受ける機会があった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ前は、運営推進会議には地域の方、ご入居者様とご家族が参加して下さい、日常生活の写真をスライドで見させて頂きながらご意見を頂いていた。現在は、地域包括支援センターの方に議事録をお送りし、コメントを頂いて、ご家族へ発信している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困り事や確認事項など、必要に応じて問い合わせしたり、事業所の実情に即したアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時と、年2回程度の研修では、資料や事例を用い、身体拘束をしないケアは勿論、不適切ケアが行われていないかの振り返り等も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に関する研修会と一体的に研修を行ったり、ケアの中でスタッフ同士の気付きをもとに振り返り、ミーティング等で共有し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修の機会があれば参加し、参加者以外へも周知できるよう、ホーム内での資料回覧や勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は約2時間以上の時間をかけ、一つ一つ読み上げて、確認しながら説明している。その場だけではなく、後日でも質問頂いた際には丁寧な返答を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご本人の日常の様子や体調の変化、ホーム内の状況等、こまめに電話でお知らせしたり、月1回の『みちの木だより』で報告し、会話の中で想いや希望をくみ取る様にしている。ご家族の意向や希望は、社内会議にも上げて共有し、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回、代表者と面談の機会があり、直接話す場がある。また、管理者やユニットリーダーは、面談に限らず日頃の業務の中で出てくる意見や提案に耳を傾け、業務改善に取り入れたり、社内会議に上げて共有に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、社内会議やリーダーとの面談で、働くスタッフの状況を把握した上で、個別の面談時に声掛けをしている。実務者研修や介護福祉士の受験を希望するスタッフには支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	12と同様、社内会議やリーダーとの面談で、スタッフの状況や成長を把握し、研修を企画している。また、一人一人の自己評価を行っており、結果をもとに、そのスタッフに合わせたトレーニングを計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流は難しいものの、民介協や日本認知症グループホーム協会等に所属し、情報交換を行い、サービスの質向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、ご本人・ご家族と面談し、ご本人・ご家族が何を求めているか傾聴し、ケアマネージャーや相談員等の情報も併せて、困り事や希望を聞き取る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同様。ご入居前後は、出来るだけ密に連絡・報告をして、要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とは、現在のご本人の状態の共有を図り、要望に耳を傾けながら、必要な支援の見極めに努め、ご家族に協力を頂きながらともに支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をして頂いたり、一緒に行っている。行事やレクリエーションは、ご入居者様の希望をくみ取り、アイデアを出し合って、共に楽しめるものを企画・実践している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有に努め、ご家族が介護に関われるような働きかけを行いながら、協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達やご家族との電話を繋いだり、はがきのやり取りを支援している。コロナ禍で馴染みの場所に行けない状況の為、ホーム内で植物や花を飾る等、工夫をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが、それぞれに声掛けをしたり、気の合う方が同席できるような座席配置を工夫し、互いに支え合える関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族や親せき、ご近所の方からの入居相談が寄せられることが多くある。ただ、お看取りまでの対応をさせていただくことが多く、その後の支援等に至る事例はなかった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のはっきりした訴えに限らず、ご家族からの意向も汲み取り、ご家族とともにその方のその裏にある想いを感じ取る様に配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーや利用しているサービス事業所等の情報を取り寄せたり、ご家族に生活歴などの資料を作ってもらっている。必要時は電話等で問い合わせ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせて過ごして頂きながら、心身状況や出来る事・出来ないことの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度、また、特変のある時はモニタリングをスタッフ全員で行い、担当者がまとめている。ご家族とは、状況報告や相談の際に電話等でお話し、意向を把握し、プランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変時は、文章や時系列で詳細に記録に残しており、日々スタッフ間で共有し、その都度の対応を工夫しながら、次のプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や訴えの多い方に限らず、どの方のニーズも把握し対応できるよう、努めている。特にコロナ禍では、その時々状況に応じた対応を工夫し、可能な範囲で散歩や面会などを企画・実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍も、近隣の庭の花や紅葉を見せてもらい、ご挨拶を交わすことが出来た。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時は、ご本人の受診状況を把握した上で、ホームの提携病院で24時間の連携が可能であることを説明し、現在は皆さんが提携病院に変更されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時、週1回の報告時にホームの看護師に相談し、必要時は看護師から提携病院へ相談するなど、連携し、協働を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病棟へホームの書式で介護添書を作成し、送っている。ご家族の了承を得て、退院に向けての相談は、病院の担当者と直接行い、調整を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミニ・ミーティングを重ね、看取りについての方向性、ご家族の想いや医療的見解などを共有し、自分たちができる事を話し合いながら支援に努めている。ご家族には、主治医と直接お話しできる場を設け、同じ方向性で関わって頂けるよう配慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制、急変時のポイントなどをまとめたものを、目につきやすい場所に掲げ、いざという時に手にして動ける様にしている。訓練は未実施であり、必要性を感じている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、地域の方にも自動で連絡網が回るようになっている。寝たきりの方の搬送訓練などを行い、いざという時の動きをシュミレーションしている。また、災害時に備え、すぐに食べられる食品や簡易ストーブなどを準備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前の生活歴などを参考にし、その方に合った声掛けを工夫している。人生の大先輩であることを忘れずに介護方法や言葉掛けを工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望があれば伺い、何気ない会話や表情などからも想いを汲み取る様にしている。また、想いを表出できない方には、これまでの関わりや暮らしぶりから想いを汲み取り、支援に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や状況に合わせ、ご本人のペースで過ごせるよう支援している。屋敷の時間が長くなりがちの時は、あえてお声がけし、身体を動かしてもらおう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んでいただいたり、季節に合った服をおすすめしたりしている。鏡に向き合い、ブラシをお渡しし、ご自分で髪をとかせるよう支援している。また、ご家族が準備してくれたトリートメントやクリームなどで、介護度が高い方もおしゃれを楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きなどに参加して頂いている。その方にとって食べやすい食事形態(手で食べやすい、飲み込みやすいなど)を工夫して提供している。食事内容は偏らない様、洋食なども取り入れ、喜んでいただけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は記録し、声掛けや好みの飲み物の提供に努めている。食事が摂れなくなった方には、栄養価の高い飲料や、高カロリーゼリーなど、食べられそうなものを用意したり、ご家族に協力して頂きながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状況に合わせて、毎食後声をかけたり、誘導・促しを行っている。全介助の方は、スポンジブラシや口腔ガーゼ等を使用して残渣物を取り除き、ジェルで乾燥を防ぐ等、状況に合わせたケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するため、記録には性状や量・色等も記載している。場合によっては、排泄状況だけではなく、ご本人の言葉や様子も記載し、タイミング把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一覧表で排便リズムを把握し、その方の適切な量・タイミングで排便が来ているか確認している。下剤だけではなくファイバー飲料、オリゴ糖なども使用し、出来るだけ自力で排泄できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には会話を楽しんでいただけるよう心掛けています。体調や気分に合わせて入って頂けるよう、曜日等は決めずに対応を工夫し、声掛けに応じられない場合は翌日に変更するなど、臨機応変を心掛けています。寝たきりの方のベッド上シャンプーや清拭、足浴・手浴なども行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、その方の状況に合わせて休息して頂いている。室温や明るさなどは、その方の希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理表で確認でき、特に新しい薬の処方時は、副作用に注意し経過観察を行っている。入居時からの薬も含め、現在の状況に合っているか、看護師と確認しながら、提携医と連携を図っている。薬の飲みにくさについても共有し、粉碎や飲み方の工夫などを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の得意な事やお好きな事を把握し、編み物や飾り作り、脳トレやパズルなど、また、洗濯物干しやたたみ物などの家事に、やりがいを持って取り組んでいただけるよう支援している。クリスマスやお誕生会など、飾りつけや料理、余興など、楽しんでいただけるような工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は控えているが、暖かい季節には近隣をお散歩したり、日光浴をして気分転換して頂いた。御近所の庭の桜や紅葉が見事で、挨拶を交わしながら観賞することが出来た。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今の所、使用する機会がなく、所持を希望される方もいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とのはがきのやり取りを支援したり、電話の希望があれば取り次いだりしている。電話等が難しい方には、ご家族からのビデオレターを見ていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室等は常に清潔を心がけ、共用空間は定期的に消毒を行っている。季節ごとの飾りを作ったり、植物や花を飾ったりして居心地良い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方にとって混乱を招かないような座席を工夫し、配慮して配置している。居室にこもりがちの方には声をかけてリビングへお誘いしたり、お疲れの様子が見えたら居室へ誘導するなどし、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持参していただき、ご家族の写真や手紙、好きな物（花や動物のぬいぐるみ）を飾っている。使いにくい物はご家族と相談しながら、ご本人の使いやすい物へと変更している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札があり、わかるようにしている。動線には障害物がないよう気を付けており、また、手すりや家具配置により、安全に歩いたり、車いすで移動できるよう工夫している。		